

スティーヴン・マイヤーのビデオ「進化：バクテリアからベートーベンまで」

Greatchain

2019/10/27

「科学の蜂起 Science Uprising」運動による世界的目覚めを示すものとして、Stephen Meyer 博士の、この動きを知らない人のための、ダーウィニズムとは何かを説明する、5分間ビデオが、圧倒的多数の人々に視聴されていることを伝えている。NHK テレビは、その正反対のダーウィン進化論教育を、年少者あるいは無知な人々に向けて、意図的に行っている。

講義の前に、「ディスカバリー研究所」の David Klinghoffer がその解説をしている。



これを想像してください。科学哲学者スティーヴン・マイヤーが、ヤンキー・スタジアムをいっぱいにするほどの新しい支持者を得て、なぜ、進化について疑問をもつかを議論している。ところで、これを 20 倍していただきたい。プレイガー (Prager) 大学のスタッフたちが喜んで指摘しているように、このビデオがリリースされて、ほんの数日の間に、マイヤー博士のプレイガー大学ビデオ「**進化：バクテリアからベートーベンまで**」(<https://www.prageru.com/video/evolution-bacteria-to-beethoven/>) は、いくつかの発表の場を通じて、百万人の人々に視聴されている。これはヤンキー・スタジアムの 20 倍であり、
なおも続いて、これはさらに増大している。

まだご覧になっていないなら、ここでどうぞ：

<https://youtu.be/DOIbcOoaxuY>

(Evolution: Bacteria to Beethoven)

それは長さたった 5 分で、ダーウィニズムの急所というべき 2 つの問題を要約している。そのそれぞれが、マイヤーの最初の 2 冊の本、*Signature in the Cell* (細胞の中の署名) と *Darwin's Doubt* (ダーウィンの疑問) で、焦点となっている。あなたはこれを、ユーチューブ、フェイスブック、または PragerU 自身のサイトで見ることができる。ユーチューブでは、コメント数が 5,000 まで跳ね上がり、さらに上昇している。それは、ある特定の話題が盛んになっているということで、ダーウィン強硬派が、大人でも若者でも、考え深い人に議論してほしくない、最も気にしている話題なのだ。すなわち、ダーウィン進化論の証拠が果たして説得力をもつのか、という問題である。

学者でないとわからないこと？

ワオ、これはいったい必要なのか、今頃になって？ 私のこれまでに経験した例を話そう。私は先日、私のユダヤ教会の友人と話し合った。彼は、ひそひそ声で「進化」はどうして、ユダヤ教と折り合いが付けられるのか、と言った。キリスト教徒の有神論進化論者も、彼らの宗教について、やはり同じことを言う。私はこの友人に、「進化」とはどういう意味なのかと訊ね、ダーウィニストはこの言葉を、誤解を起こさせるように、いわばインチキ賭博のように使うのだと言った。あたかも、一つのことがある意味をもつが、実はそれは、いくつかの別の意味をもっているかのようなのだ。「時間とともに変化する」「マイクロ進化」「マクロ進化」「普遍的共通の祖先」など、みんなそれだ。

友人は手を振ってこれを退けた。彼は、博士号をもつような学者だけが、そのような細かい弁別を理解することができるのだ、と教えてくれた。へえ本当かい？ スティーヴン・マイヤーが、このビデオの最初の言葉で言っているように、ダーウィン説 (ランダムな変異 + 自然選択 = 生物学的多様性、バクテリアからベートーベンまで) とは、我々が高校で教えられた通りのものである。その説明で、わかったことにした方がよい。それは、高校以上の年齢のあらゆる者に、議論ができるはずのものである。

確かにそれは、理解可能であり、議論することもできる。マイヤーはこの 5 分間ビデオで、すばらしく明晰な説明力によって、なぜ、標準的な進化物語を疑う科学者たちが、「正当な理由で疑問をもつ」のかを説明している。一方、マイヤーや他の人たちが、皮肉をもって指摘してきたように、私の友人のような“素人”は、どこまでも「進化」を弁護している

(どんな意味をそれに与えよう)。科学者でさえ、この言葉に、立派な批評家のような評価を与えているのである！

誰でも、このビデオのスティーヴン・マイヤーの言うことは理解できる。私の友人には悪いが、学者でなくても理解できる。ちゃんと聞けば理解できることがわかるだろう。わかったら、これをあなたの友達や家族に、広く分け与えていただきたい。

スティーヴン・マイヤー講義 (イラストを参照されると、なおさらよくわかるだろう)

進化——これを皆さんは高校で学ばれたであろう。それは大体こういうことだ。生命は非常に単純な形で出発した。そしてその後、徐々に、何億年もかけて形を変え、我々が今日、見るような、すべての生命体になった。バクテリアからベートーベンまで。もちろん、直線的にはないが、これがほぼ、起こったことの概要である。これが1859年に、チャールズ・ダーウィンによって提唱された説であり、それは、いくつかの修正を伴って、前世紀を通じて、科学者共同体によって信奉されてきた。進化生物学者のリチャード・ドーキングズが言うように、「もしあなたが、誰か進化を信じないと主張する人に会うならば、その人は無知か、愚鈍か、狂人かのいずれかである。」しかし、それは正しいだろうか？ 生命の起源の進化論的説明を疑問とする、科学的理由は全くないのだろうか？

2016年の11月、私は、世界の何人かの、指導的な生物学者によって招集された、ロンドンのある会議に出席した。その目的は？ それは、ダーウィン説の現代版について起きている疑問を、考えてみることだった。

この説を疑ってみる科学的理由を、2つだけ検討してみることにしよう。まず、「カンブリア爆発」と言われるものがある。ある不気味で驚くべきことが、5億3千万年ほど前に起こった。動物の大きな集団のひとつ——科学者が「門」phyla と呼んでいるもの——が、突然、生物学的にごく短い時間枠——ほぼ千年——の間に、出現するということがあった。これらの全く新しい動物が——我々が今日、見るほとんどの動物の、ボディ・デザインの原型をもち——それより前の祖先の証拠なしに——化石記録として現れたのである。おわかりだろうか？ 莫大な数のさまざまな動物が、それと見分けられる先行生物なしに、現れたということである。

では、それらはどこから来たのか？ この疑問は現実にダーウィンを悩ませた。そして彼は、それには「どんな満足できる答え」も、与えることができないと認めている。それは現代の科学者も同様だ。国立センター、Biotechnology Information の著名な生物学者 Eugene Koonin は、こうしたカンブリア紀の動物や、他の生物たちの突然の出現を、「生物

学的ビッグバン」のパターンだと説明し、恐竜も、鳥類も、花をつける植物も、哺乳類もそうだと言っている。では、どのようにして、これらすべての生物が出現したのだろうか？

この疑問は、2つ目の大きな疑問へとつながっていく。すなわち DNA の謎である。

1950年代に、ジェイムズ・ワトソンとフランシス・クリックが、驚くべき発見をした。すなわち、DNA分子は、ある4つの文字のデジタル・コードとして、情報を蓄えているという発見である。DNAらせん内部の、正確に配列された化学物質の紐が、指令、すなわち、細胞が生き残るのに必要な、不可欠なタンパク質を作る情報を、蓄えている。DNAテキストの中の、この化学物質の“文字”が正しく配列されていなければ、1つのタンパク質分子は形成されないだろう。タンパク質なしに細胞はない。細胞なしに生きた生物は存在しない。ビル・ゲイツは、「DNAは、ソフトウェアのプログラムに似ている」と言った。ちょっとそのことを考えてみよう。コンピューターがより速く作動し、より多くの機能を果たすためには、それは新しいコードを要求する。その同じことが、生命についても言えるのである。

新しい生命体を創るためには、進化のプロセスは、新しい遺伝子情報——新しいコード——をつくり出す必要があるだろう。しかしそうだとすると、自然選択と突然変異の創造能力について、疑問が起こってくる。自然選択は、単純なより分けプロセスである。種（しゅ）は、自分が生き残ることを有利にする条件を保存するが、自分の仲間を死に絶えさせるような、悪い変異は消滅させる。自然選択は現実のプロセスであり、小さな変種なら、産み出すことを疑う者はいない。しかし、多くの生物学者は、現在、それが、大きな改革的な生物種をつくり出すことには懐疑的である。なぜかを知るためには、再び、ソフトウェアのことを考えていただきたい。もしあなたが、わずかなランダムな変化を、コンピューター・コードに導入するなら、何が起こるだろうか？ あなたはそれを台無しにするだろう——間違いなく。それはまだ作動はしているかもしれない——あまり多くの変化を与えない限り。しかし、もし十分に多くのランダムな変化を与えるならば、あなたのプログラムは、完全に機能しなくなるだろう。あなたは確実に、仕事をやり続けながら、何かすばらしい、新しいプログラムが、突然現れることを期待することはできない。このことには数学的理由がある。

すべてのコード（暗号）と言葉では、無意味なチンプンカンプンを作り出す文字配列を作る方が、意味のある配列をつくり出す機会より、圧倒的に多い。そしてこれは DNA に当てはまる。忘れないでほしい——自然選択は、ランダムな（突然）変異が生み出した配列のみを“選択する”のである。しかし実験によって確立されたことは、安定したタンパク質を作ることのできる DNA 配列は、極端にまれだということである。したがって、ランダムにそれに出くわすことは、実に難しいということである。どれくらいまれなことか？

ケンブリッジ大学で研究しながら、分子生物学者の Douglas Axe が示してみせよたことは、1つの比較的短い、機能するタンパク質を産み出す DNA 配列 1つに対して、機能しない配列は、10の77乗個あるということである。ところで、我々の銀河系には、10の65乗個の原子しか存在しないことを考えよ。これは、ある機能するタンパク質をつくることのできる、新しい DNA 配列を見つけることは、目隠しをして、1兆の天の川銀河の中から、1個のしるしをつけた原子を探し出すようなものだ。乾草の山の中から1本の針を探すどころの話ではない。私の著書 *Darwin's Doubt* に示したように、生命の歴史の40億年をしても、これほど大きな探しの問題をやってのけるには、時間が足りない。

そこで、現代のダーウィン説についての、2つの深刻な疑問があった。1つは「カンブリア爆発」つまり、新しい動物が突然、出現し、進化論が説明できないでいる問題。もう1つは、「DNAの謎」つまり、ランダムな変異が、新しい動物をつくるのに必要な情報を産み出すことは、とうていありそうもないこと。このような問題を承知している科学者たちが、「無知で、愚鈍、あるいは狂人」ということはない。彼らはただ、**正当な理由によって懐疑的**なだけである。

私はスティーヴン・マイヤーです。プレイガー大学「ディスカバリー研究所」のシニア・フェローです。ご清聴ありがとうございました。